

学生と卒業生の協働による 「同志社DAY」の地域での開催

春・秋連続学期 | 今出川校地開講科目

1. 目的・概要

the purpose and an outline

私たちのプロジェクトは、同志社の卒業生たちが所属する「同志社校友会」と連携して、大学卒業後は同志社から遠ざかってしまった卒業生たちと現役同大生たちが、共に同志社スピリットを燃え上がらせることができるようなイベントの企画を行いました。

イベントを企画する上で大切にしてきたのが①同志社の卒業生と現役生の交流、②人を惹きつける“非日常”の要素、③今後にも繋がる関係を築ききっかけ作りという三つの柱です。私たちが同志社の卒業生と現役生を繋ぐ架け橋になり、これまでにはなかったような交流の場を生み出すことを、イベント最大の目的として掲げました。また卒業生と現役生の交流をより印象深いものにし、いつまでも記憶に残るイベントにするために“非日常”の要素を取り込み、魅力的な企画に仕上げていきました。そしてイベントを通じて、かけがえのない時間を共に過ごすことで、参加者のみなさんが同志社という繋がりを大切に、今後も母校に足を運んだり、交流したりする契機になってほしいという願いを込めました。

半年以上もの長い時間、協議を重ねたすえに完成させた企画が『同志社NIGHT』です。三つの柱を軸に、「同志社らしさ」満載の楽しいイベントが出来上がりました。



半年以上もの長い時間、協議を重ねたすえに完成させた企画が『同志社NIGHT』です。三つの柱を軸に、「同志社らしさ」満載の楽しいイベントが出来上がりました。

annual schedule

2013年	4月	オリエンテーション／プレーンストーミング
	5月	新島旧邸見学／第一回企画プレゼンテーション／企画会議 有限責任監査法人トーマツ：足羽 剛氏(98商卒)・西原 大祐氏(99経卒)による講演
2013年	6月	サンケイデザイン株式会社：吉田 哲史氏(95経卒)による講演 第二回企画プレゼンテーション／企画会議
	7月	株式会社オリエンタルランド：明石 泰典氏(88経卒)による講演 中間報告会
2013年	8月	夏合宿
	10月	企画決定／企画書作成
2013年	11月	企画書提出／各種交渉／イベント準備／リハーサル
	12月21,22日	『同志社NIGHT』開催
2014年	1月	成果報告会
	2月	同志社校友会大懇親会



2. 成果達成度

the achievement degree

当プロジェクトは今年度スタートしたばかりで、同志社の卒業生で社会人である先輩方をお招きして企画の作り方・プレゼンテーションのノウハウを学びながら、前例のない白紙の状態からイベント作りを始めました。最初は「おもしろい」「人が集まる」といった漠然とした理由で『同志社運動会』を企画しました。しかしイベント作りの基本である5W1Hを考えた時、メンバー間で価値観の相違が生まれ、具体的な内容が固まらないまま中間報告会を迎えました。当然、中間報告会では厳しい評価をいただき、私たちは思い切って企画をいったん白紙に戻しました。

プロジェクトが大きく動き始めたのは夏合宿です。メンバー全員で「同志社」をテーマにしたブレインストーミングを行い、イベントの軸を探りました。軸を固めることによって、メンバー同士の意識の統一をはかることができ、企画の内容を考えていく上で迷うことがなくなりました。またイベントのターゲットである同志社の卒業生・現役生を対象にアンケートを行い、参加者がイベントに何を求めているのかという客観的な視点を加えながら、企画を練り上げていきました。



秋学期は、夏合宿で決定した三本柱を基にしてひねりだした企画の実現に向けて活動しました。企画には大学構内の利用許可を得る必要があり、教務課と何度も交渉を行い企画書の改良を繰り返しました。教務課に許可をいただけなかった部分では、同志社校友会にご協力をお願いして代替案を立てました。また在学生でありながら同志社についての知識が乏しいことに気づかされ、資料を集めたり同志社に縁のある場所を訪ねたりして、イベントをより同志社に関連づけたものにしていきました。



2013年12月21(22)日、試行錯誤の末に『同志社NIGHT』という形になった企画を、卒業生・現役生あわせて6名の参加者を迎えて、予定通り実行することができました。イベントでは、まず卒業生にとっては馴染みのない良心館の食堂で食をとりながら、現在と昔の学食の違いについて語り合い親睦を深めました。お互いの顔と名前を覚えたところで、夜の同志社大学でナイトキャンパスツアーを行い、通常では利用できない時間でしたが、特別に許可をいただいて礼拝堂やクラーク記念館の中を見学し、同日に行われていた新町祭に参加して学祭の雰囲気を楽しみました。ツアー後はチーム対抗で同志社の隠れスポットを探すゲームを行い、メンバーと参加者が入り交じって、夢中で夜の学校を探検しました。卒業生はもちろん現役生にとっても、夜のキャンパスは普段と異なる独特の姿で、まさにイベントのテーマにしていた“非日常”を感じることができました。そして同志社校友会の本拠地である新島会館に場所を移し、長い夜が始まりました。新島先生と妻の八重さんが暮らした新島旧邸を目の前にし、同志社の卒業生と現役生が共に過ごす特別な夜であるからこそ、参加者のみなさんにはほとんど同志社スピリットを感じていただこうと、さまざまな仕掛けを用意しました。例えば、かつて知らない同大生はいないと言われていた定食屋わびすけの「いもねぎ定食」を、店長さんからレシピをいただいて再現し、夜食としてサブライズ提供しました。またメンバーが集めた今出川・京田辺のキャンパス風景の写真をスライドショーで発表したり、新島夫妻にまつわるエピソードを紹介したりして、会話のきっかけを作りました。オールナイトで語り明かし、まだ朝日も昇っていない時間に全員で若王子山へ向かいました。これは新島先生の葬儀の際、深夜に学生たちが棺を担いで山を登った史実を題材にしたイベントです。空が白み始めた頃に山頂に到着し、新島先生の墓前で、同志社という学舎に集まった幾多の学生と自分たちの絆を感じました。



盛り沢山のイベントに参加者のみなさんと共に無事終えることができ、私たちプロジェクトメンバーも貴重な経験をさせていただきました。



3. プロジェクトを通じて

through a project

「同志社でおもしろいイベントを作りたい！」という熱い気持ちで集まったメンバーたち。イベントという華やかな響きとは裏腹に、理想だけでは前に進むことができず、綿密な企画を練り上げるためにメンバー全員が地道な努力を続けました。社会人に対するマナーの大切さ・チームとしての連携の難しさを体感しながら、苛立ちや悔しさを乗り越えてプロジェクトを完成させました。イベントを無事に終えた今、「プロジェクトの成功＝イベントの成功」ではなく、イベントを実現するためにやってきた全ての過程が自分たちの成長につながっていることが、大切であると感じます。



【編集後記】

私はイベントの統括を担当し、大学生活ラスト一年間の大部分をこのプロジェクトに費やしました。「みんなで考えたイベントを必ず形にしたい」という一心で、毎日企画書を持って駆け回りました。思い通りにいかない現実に何度もくじけそうになりましたが、メンバー・TAさん、先生方をはじめ教務課のみなさんや多くの方々の支えによって、目標を達成することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

【プロジェクトメンバー】

三原 詩音(神3) 永井 匠(文2) 前川 英輝(社会3) 豊田 清乃(法3) 伊藤 佑樹(法3) 谷下 莉加帆(法4) 高木 遥二郎(経済3)
松岡 輝(経済4) 久保 香奈(商2) 黒田 美優華(商3) 山本 彩乃(商3) 福本 祐基(政策3) 伊藤 謙佑(TA)